

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)ひがしだグリーン

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境					0.40			3.7
1 音環境				3.5	0.15	3.8	1.00	3.5
1.1 騒音				4.0	0.40	5.0	0.40	
1 室内騒音レベル		コンクリート躯体及び仕上材を使用し騒音レベルの低減をする		4.0	1.00	5.0	1.00	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				4.4	0.40	4.2	0.40	
1 開口部遮音性能		T-2性能のサッシを使用する		5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		Dr-45及びDr-50以上の界壁材を使用する		4.0	0.60	5.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				3.3	0.35	2.6	1.00	3.3
2.1 室温制御				3.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・過渡制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		40㎡以下に空調ゾーニングをし、ゾーン別に冷暖房選択が可能		5.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.6	0.25	4.1	1.00	3.6
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		共用部昼光率=5.54、病室昼光率=4.47、		5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		ブラインド又は庇とカーテンでグレア抑制		4.0	1.00	4.0	1.00	
3 機材込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		端末等により細かい照明制御ができる		3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境				4.4	0.25	4.6	1.00	4.4
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		内装仕上材全て規制対象外材料を使用		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	4.0	0.38	
1 換気量		建築基準法及び建築衛生法の必要換気量の1.2倍以上		3.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室の床面積の1/10以上		3.0	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		建物内は全て禁煙		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				3.0	0.40	4.4	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		個室で10㎡/床、多床室で8㎡/床以上		3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		天井高さ2.5m		3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクトをステンレス鋼板としている		5.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・給湯間をステンレス管、配水管を硬質塩化ビニールとしている		4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.4	0.19	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型器具の使用、雑用水に中水を使用する	1.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	電源設備は地上に配置、非常用発電設備(一部)備えている	5.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化、通信機器を地上に配置している	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化、通信機器を地上に配置している	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.6	0.29	3.5	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり	1	空間のゆとり		4.0	0.31	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり	階高 = 3.7m以上	4.0	0.60	4.0	1.00	
3.2 荷重のゆとり	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = 0.21 (共用部)、0.3 (病室)、	4.0	0.40	-	-	
	2	荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.8	0.38	-	-	
1	1	空調配管の更新性	仕上材を痛めることなく空調配管の修繕、更新が容易にできる	5.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく修繕、更新が容易にできる	5.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく修繕、更新が容易にできる	5.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.6
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	屋上緑化、敷地内緑地、空調機器室外機の屋上配置等を行ってい	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建築物の熱負荷抑制				3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽熱(ソーラーパネル)を利用し給湯をしている	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				3.6	0.30	-	-	3.6
3a 集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	3a	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	ERR値 = 15.6%	3.0		-	-	
	3b	集合住宅の評価		3.0		-	-	
4 効率的運用				4.0	0.20	-	-	4.0
4.1 モニタリング	4.1	モニタリング	スマートグリッドを活用しエネルギー消費量を確認する	4.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針を計画している	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護				3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 節水	1.1	節水	節水コマ、節水型便器等を使用する	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60	-	-	
1	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水を利用し中水とし再利用している	4.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	外壁に陶磁器タイル、内部にビニル床材、階段滑り止め、	5.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から産出された木材を50%以上使用する	5.0	0.05	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上材及び設備材料が容易に分離可能	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない建材種別が4以上ある	5.0	0.32	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用せず、大気汚染物質を排出しない	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適量の駐車スペースを確保し、周辺地域に渋滞を発生させない	4.0	0.25	-	-	
4	4	廃棄物処理負荷抑制	十分なゴミ置場を確保し、分別回収及びゴミの低減をする	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	0.33	-	-	
	2	振動		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制	3.2	風害、日照障害の抑制		3.0	0.33	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	2	砂塵の抑制		3.0	0.70	-	-	
3.3 光害の抑制	3.3	光害の抑制		3.0	-	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.30	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	「光害対策ガイドライン」 「広告物照明の扱い」の項目の過半以上を建物外壁によるグレアを発生していない	5.0	0.20	-	-	
				5.0	0.30	-	-	